

# 子ども地域支援事業ってなあに？

発達障害あるいは発達障害の疑いのある子どもが、地域社会の中でいきいきとした生活を送る為に、作業療法士または公認心理師を派遣し、現場のニーズに合わせた専門的な支援を行います

Step 1

## 打ち合わせ



事前書類をもとに、子どもさんの様子や困り感をお聞きします。

Step 2

## 場面観察



普段の子どもさんの様子を観察し、専門的な視点から評価をします。

Step 3

## カンファレンス



子どもさんの特性や現場で出来る活動、環境設定等を先生方と話し合います。

### Q. 作業療法士にはどんな相談が多いの？

#### 生活面

- ・偏食がある
- ・朝の準備が進まない

#### 情緒面

- ・切り替えが難しい
- ・手が出る、パニックになる

#### コミュニケーション面

- ・言葉が遅い、発音不明瞭
- ・友達とうまく遊べない

#### 姿勢運動面

- ・よくこける、不器用
- ・姿勢が崩れる

#### 学習面

- ・読み書きが苦手
- ・計算が苦手

### Q. 公認心理師にはどんな相談が多いの？

#### 心理面

- ・不登園、不登校、登校しぶり
- ・生活、睡眠リズムが崩れている
- ・情緒的不安
- ・二次的障害

#### 関わり方

- ・保護者支援 (家庭環境、虐待、ネグレクト)
- ・環境設定について
- ・声のかけ方、ほめ方など

# 作業療法士ってどんなことを考えているの？

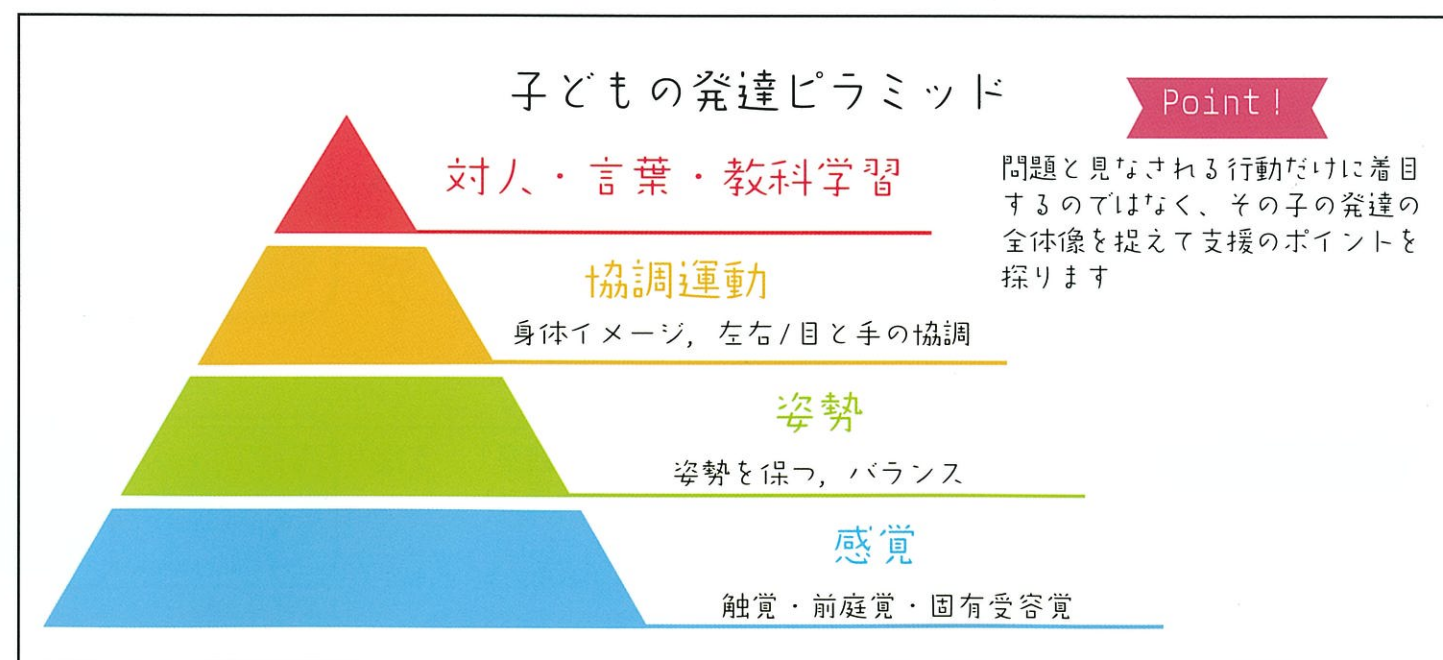
例 落ち着きがない子に対して

問題と見なされる行動の原因を分析することから始めます。  
日常生活の様子や動きの特徴、環境要因など幅広い視点で分析します。



「落ち着きがない」原因は、1つではありません。それぞれの子どもの原因に合った手立て(環境設定や直接支援など)を提案し、より良い支援方法を先生方と一緒に考えていきます。

ここで、ヒントとなる視点!!



#### ●感覚面のトラブルの場合

- ・感覚の捉え方は人によって異なります。
- ・感覚の捉えが過敏な場合は、様々な刺激を受け取りすぎ、集団場面でしんどさを抱えているかもしれません。
- ・感覚の捉えが鈍い場合は、刺激が足りずに、動きたい気持ちが強く、じっとするのが苦手かもしれません。

#### ●姿勢面のトラブルの場合

- ・姿勢が育っていないことで、安定して座り続けることが難しいかもしれません。
- ・姿勢が育っていないことで、手先の不器用さにつながり、絵や字を書く細かな操作が求められる場面で落ち着きがなくなっているのかもしれない。

支援内容の提案の際には、子どもの発達段階に合わせた活動や遊びに加えて、クラス全体で取り組める活動、無理なく継続できる活動など、所属する環境にも配慮しています。

※令和3～4年度、作業療法士と幼稚園の先生が連携し、効果検証を行いました。詳細をP3～4に掲載しています。  
なお、検査や再評価等は効果検証の為に実施したもので、普段の訪問では実施していません。